

ANNUAL REPORT

2023

2023年度活動報告

みんなで紡ぐ、
心躍る未来



こどもたちのために、日本を変える
Florence

TOP MESSAGE

希望のバトンを 未来の子どもたちへ手渡そう

フローレンスグループ 会長 CEO
認定 NPO 法人フローレンス会長

駒崎 弘樹

2024年4月、フローレンスは創立から20周年を迎えました。「子どもの看病で仕事を休んだら、会社をクビになった」そんな、あるひとりの母親の声を聞いて「こんな社会は変えなければならない」と決意し、たった4人で小さな一歩を踏み出したとき、わたしたちが20年後にこれほど多くの方に支えられ、親子にたくさんの「新しいあたりまえ」を届けることができる団体になっていると、誰が想像したでしょうか。

この20年間にフローレンスはさまざまな事業を立ち上げ、「小規模認可保育所」や「障害児保育園ヘレン」「無料産院」事業といった社会課題への新たな解を生み出し、全国に支援を届けられるまでに成長しました。この長く険しい道のりを前へ前へと進むことができたのは、フローレンスと歩みをともし、応援の声を届け続けてくださった皆さんがいてくれたからこそです。

新たなしくみをつくり、新しい制度を生み出すには、大きなパワーが必要です。立ちはだかる壁を打ち破るには、諦めない強い心を奮い立たせなければなりません。それでも、辛い境遇にある親子の声を聞くたびに、声を上げることすらできずにいる子どもたちの姿を目にするたびに、わたしたちは決意を新たにします。「子どもたちのために、日本を変える」と。

社会のルールや価値観をアップデートし続け、未来を生きる子どもたちに希望という名の輝かしいバトンを手渡すために、フローレンスはこれからも皆さんとともに荒野を歩み続けます。その先に広がる心躍る未来に向かって。



フローレンス職員座談会

旗振り役となり 社会に活動の輪を広げていく

すべての親子の笑顔願って、日々活動に取り組んでいるフローレンススタッフ。
20年の節目の今、あらためて“取り組みに込めた想い”を語ります。



ソーシャルテック事業部 DXD
事務局スタッフ
服部 しほり (はっとりしおり)

みらいの保育園事業部
事務局スタッフ
磯崎 雄大 (いそぎきゆうた)

障害児保育園ヘレン事業部
サブマネージャー
石川 直子 (いしかわなおこ)

より良い社会をつくる 一員になりたい

— フローレンスとの出会い、入職のきっかけは何ですか？

磯崎 駒崎会長の著書との出会いが、わたしがフローレンスを知ったきっかけです。娘が生まれて育休をとり、子育ての苦労を痛感していたこともあり、親子の笑顔願う社会課題解決集団であるフローレンスの考え方に感銘を受け、すぐに転職を決意しました。

服部 わたしは大学時代にNPOのイ

ンターンをしていた際、議事録で駒崎会長の名前を見かけたんです。その後、NPO業界を中心に「世の中をより良くする仕事がしたい」という軸で就職活動を行い、フローレンスとご縁が繋がりました。

石川 わたしは20年ほど前、病児保育事業に関する新聞記事でフローレンスを知りました。子育て真っ盛りの時期だったため強く印象に残りましたね。その後いくつかの職場を経験した後、ふとフローレンスを思い出し、調べる中で「ここなら子どもが大人にな

ることを楽しいと感じられる社会づくりができそう」と思い、入職を決めました。

— 現在の担当業務について、想いや目標をお聞かせください。

服部 直近では、採用サイトのリニューアルに注力しています。わたしたちの想いや魅力を伝えることはもちろん、求職者の方々に信頼していただくための最初のタッチポイントであり、フローレンスの輪を広げる上で重要な役割を担っていると感じます。ど

う届けていくのか、使う言葉一つひとつにまでこだわってより良いサイトをつくっています。

磯崎 わたしの所属するみらいの保育園事業部では、質の高い保育の実践とともに、保育園を地域に開くことも積極的に取り組んでいます。その一つが保育園こども食堂です。核家族化の影響もあり、孤独な子育てに悩まされている方は多くいらっしゃいます。保育園でこども食堂を実施し、食の支援の場はもちろん“第3の居場所”として地域に暮らす親子に活用いただくことで、新たな人との関係性を築ききっかけになればと思います。

石川 わたしの担当は大きく2つあり、1つ目は事業部人事です。わたしたちの想いを体現し、病児保育などの利用会員の皆さんに直接笑顔をお届けするのは、保育士や看護師です。そのスタッフの採用や、入職後の支援をするのが主な仕事です。

保育の現場で働くスタッフに、変化や期待する役割を伝えつつ、長く熱意を持って働き続けてもらうためのサポー



仕事をし続けたいに恥じない



ソーシャルテック事業部 DXD
事務局スタッフ

服部 しばり (はっとり しおり)

入社5年目。新卒で入社後、採用担当として活躍。現在はWebディレクターとして、ランディングページの保守はもちろん、リニューアルや新規ページ制作の進捗管理を担っている。

「何か手助けがしたい」
その気持ちが原動力です。



みらいの保育園事業部
事務局スタッフ

磯崎 雄大 (いそざき ゆうた)

入社2年目。保育園こども食堂の実施や、小中高生に向けたこどもインターンの実施など、保育園が新たな役割を担うためのさまざまな取り組みを開発・推進している。

トを行っています。

2つ目はサブマネージャーとして、所属する事業部の舵取りを担っています。例えば、ここ数年で障害のあるこどもも一般の保育園に入園できるように世の中が変化し、フローレンスの障害児保育園に求められることも変わりました。次にどんな活動を展開すべきか常に考え、事業変革を行うことが重要だと感じます。

先駆者として、 仲間とともに

— 20年の節目を迎え、今フローレンスに求められるのは何だと思いますか？

石川 新しい社会を築く旗振り役であるべきだと感じます。わたしたちが活動を広げ、世の中に周知することはもちろんですが、利用者としてフローレンスに関わっている親子が活動に共

感し、今度は支援する側に立って取り組みに関わる。競合ではなく仲間として、他の事業者とも手を取り合って支援の輪を広げていく。そういった積み重ねで、心躍る未来を実現していきたいです。実際に、病児保育をご利用されていたお子さんが大きくなり、高校の公民の教科書でフローレンスの名前を目にして、改めて活動に共感してくださる方もいて、次世代へのつながりを感じています。

服部 特に、フローレンスでは企業から無償で技術提供いただいた業務システムを積極的に活用していますよね。そこで得た知見を他のNPOに提供し導入をサポートしたり、ハブとして企業とNPOをつないだりして、同じ想いを持つ組織の支援をすることで、社会全体をより良くできると思います。



磯崎 フローレンスの先進的な取り組みが広く浸透し、世の中を変えた事柄はたくさんあります。だからこそ、収益がすぐには見込めないために営利企業が取り組もうとしない領域にも切り込み、トライアンドエラーを繰り返しながら荒れ地を開拓していく姿勢も大切にしていきたいです。それが昔も今もフローレンスに求められる役割だと感じます。

— 改めて、フローレンスらしさをお聞かせください。

服部 わたしたちの活動は決して特別なものではありません。困っている方々のために自分にもできることがあると気づいたから行動しているだけだと思うんです。

石川 社会を今より少しでも良くしたいという想いをもち、前向きに取り組み続ける。それがフローレンスらしさですね。だからこそ、フローレンスの一員として活動できることは誇りです。

磯崎 自分にできることは限られていても、仲間と力を合わせれば、多くの方に笑顔をお届けされる。そして、フローレンスだけでは実現できないことも、寄付者の皆さんとなら成し遂げることができる。「誰かのために」という想いで人とつながり、世の中をより良くする一助になれることに喜びを感じます。

— 最後に、今後の抱負をお願いします。

服部 フローレンスを信頼し、想いを託してくださる皆さんに恥じない、価値のある仕事をし続けたいです。Web担当としては、より使いやすいシステムを導入するなど、仲間がいきいきと働ける環境づくりに貢献していきます。

石川 わたしも服部さん同様、誰もが長く活躍できるフローレンスを目指していきます。日々、親御さんやこどもと向き合っているスタッフがいないければ、支援をお届けすることはできません。支援の最前線にいるスタッフがフローレンスのビジョンに共感して、気持ちよく働けるようサポートに注力したいです。

磯崎 自分たちが笑顔でないと、利用者さんに笑顔は届けられません。フローレンスのカルチャーの一つである「いろいろあるさ。それでもごきげんでいこう」を合言葉に、まずは自分たちが楽しく取り組み、活動の輪を広げていきたいですね。

— ありがとうございます。

誰もが未来に希望を持てる
社会をつくっていききたいです。



障害児保育園ヘレン事業部
サブマネージャー

石川 直子 (いしかわ なおこ)

入社10年目。これまでの職場で人材にまつわる業務に携わった経験を活かし、現在は採用や入社後のバックアップを中心にフローレンスの保育現場で働くスタッフの支援を担っている。

2023年度の フローレンスの活動

たった一人の声から始まったフローレンスの取り組み。
2023年も活動の輪は広がり続けています。

頼れる存在が
心の余裕につながります

99

病児保育事業／寄付によるひとり親支援／ 多胎児家庭支援

利用者の声 これまでは息子が体調不良の際も夫と2人で面倒を見てきました。しかし、6月に夫が亡くなったことでそれができなくなり、物理的にも精神的にも追い込まれていました。フローレンスの「寄付による病児保育ひとり親支援プラン」を利用させていただくことで、心に余裕を持って息子を育てていきたいです。

● 病児保育で仕事と子育ての両立を支える

フローレンス設立とともにスタートした訪問型病児保育は、3月に累計提供件数が13万件を突破。ヘルパンギーナやインフルエンザなど、複数の感染症が同時に感染急拡大し、病児保育の依頼数が激増する中で、親子のピンチに駆けつけ、仕事と子育ての両立を支え続けました。

さらに、多胎児家庭にも支援を広げたフローレンスの「ふたご助っ人くじ[※]」が「令和5年度東京都女性活躍推進大賞 特別賞」を受賞。対象となる地域を拡げたことで、年間サポート件数は1,800件を達成しました。

今後も働き方や病児保育のニーズの変容に合わせて、事業と支援内容の充実に尽力していきます。

- 支援活動**
- 病児保育
 - ひとり親支援
 - 多胎児家庭支援

※自治体の助成を活用した場合、保育料は実質無料



ひとり親家庭への
病児保育お預かり人数

約1,788人

※2024年3月末まで



事業開始からの
病児保育お預かり件数

13万件

※2024年3月末まで

66

障害児保育・家庭支援事業

利用者の声 娘は先天性の疾患をいくつも抱えた状態で生まれました。入園当初は医療的ケアがある上に、手足や口の過敏が強く、発達もゆっくり。特に食べることが苦手で、スプーンを近づけるだけで払いのけられる日々でした。そんな娘にも先生たちはいつも優しく向き合ってくださいました。また、家ではなかなかできないこともたくさん経験させていただきました。おかげで徐々に過敏も減り、今ではお弁当を完食できます。ヘレンだからこそ、娘を安心して預け、仕事をすることができました。今後も病気や障害のあるこどもの親が、働くことを諦めずに輝ける環境が整うことを願っています。

● 医療的ケア児と、その家族の笑顔のために

医療的ケア児支援法の施行により、認可保育園や幼稚園において軽度な医療的ケア児の預かりが急速に進んでいます。その中で、障害児保育園ヘレンでは保育園等での預かりをサポートする研修を実施。障害児訪問保育アニーでは、地域の認可園ではまだ受け入れが難しい人工呼吸器やCVカテーテルを使用するお子さんのお預かりを行う「アニーバディ」をスタートし、2023年度には3名をお預かりしました。また、医療的ケアシッター ナンシーでは、外出が難しい家庭のお出掛けの機会づくりに取り組み、水族館やテーマパークなどへ医療的ケア児を育てる3家庭の遠足を実施。また、2019年の事業開始以来初となる、対面のご家族交流会も開催しました。

今後も地域の保育園などを対象に医療的ケア児や障害児保育のノウハウを積極的に広げながら、認可保育園等でお預かりが難しい重度の医療的ケア児への支援に注力していきます。

みらいの保育園事業

利用者の声 定期預かりの利用を開始してから心に余裕が生まれ、こどもへの愛情がより深くなった気がします。こどもも、お友達の声や賑やかな様子に興味を持ちたり、人への関心が芽生えたりしたことで、笑顔の時間が増えました。想像していた以上に保育園での給食や友達・先生との関わりが楽しいようです。こどもにとって、親以外に自分を出せる場所ができたことがうれしいです。

発語が遅いほうだったため心配していましたが、利用を始めてから明らかに発語数が増えました。以前よりコミュニケーションの取り方が上手になったと思います。

● こどもたちがより健やかに成長できる社会を

2024年度も、保育園にも幼稚園にも通っていない“無園児”家庭のお預かりをはじめとした保育園の多機能化をさらに推進していきます。今後医療的ケア児を小規模園でもお預かりできるようインクルーシブ保育にも取り組んでいきます。

また、フローレンスの保育園では、自分のため、誰かのため、自ら考え行動する力を育む「シチズンシップ保育[※]」を実践しています。保護者からは「3歳だけど、自分で決めることができていると感じる」など、喜びの声もいただけるようになりました。また、こどもたちが輪になって自分の考えを伝え、対話する「サークルタイム」を保育の一環として日々続けてきました。2023年10月発行の書籍『「こどもかいぎ」のトリセツ』を監修、こどもたちの対話活動を広めました。「保育園こども食堂」や「こどもインターン」の実践にも取り組みました。

※気持ちや意見を伝え合う「対話」を大切に、自分たちで考え、決めていくことを目指した保育



モデル事業での
無園児のお預かり人数

12家庭

※国のモデル事業では8家庭、東京都「多様な他者との関わり創出事業」では4家庭(2023年度)

支援活動

- 小規模認可保育所
- 認可保育所
- 一時保育室

99

わたしが輝けるのは、
先生たちのおかげです



66



お預かりした障害児・
医療的ケア児

約372人

支援活動

- 保育・家庭支援
- 遊び・交流の場
「インクルーシブひろばベル」の運営

※2023年度までにヘレン、アニー、ナンシー（東京・神奈川・仙台）でお預かりした障害児・医療的ケア児数

こども宅食・
ハイブリッドソーシャルワーク事業

99

利用者の声 親戚から6年間使用していたランドセルを譲ってもらったのですが、やはり新しいものを持たせたいと進学相談会（ランドセル配布）に参加しました。娘に「ラベンダーとミント、どっちがいい？」と聞くと、「ミントがいい！」とうれしそうに答えていました。自分で選んだランドセルを持たせてあげられて良かったです。

我が子の笑顔に
心が温かくなりました

66



すべての親子が笑顔で暮らせるように

全国への食支援活動として、大手食品企業などの協賛により「こどもフードアライアンス」を実施。

2023年度は各地のこども宅食団体を通じて、2.5万世帯へ食品や日用品など約25.3万点の物品をお届けしました。また、全国への普及推進活動として、こども宅食を知っていただくセミナーを「キャラバン」と銘打ち10都道府県で開催しました。

相談支援では、山形市より受託し、チャット相談「おやこよりそいチャットやまがた」とオンライン面談を活用した伴走型相談支援を開始。対面での進学相談会も実施しました。神戸市でも「ここならチャットKOBE」を開始し、LINE公式アカウントを通じ、属性やニーズに合わせたプッシュ型の情報配信とその個別対応、必要に応じた相談や支援を行っています。

この他にも、こども宅食赤ちゃん便のトライアルを開始し、2023年1月から5月までの5カ月間で12世帯にオムツや日用品を届けました。

今後はこども宅食赤ちゃん便の全国普及を目指すとともに、チャット相談にAIも取り入れるなど、すべての親子を孤立させない、新しい伴走型相談支援のモデル開発に取り組んでいきます。



食支援をした世帯

約10万世帯

※2021年度以降、全国のこども宅食実施団体を通じてフローレンスが全国規模で食支援をしたのべ世帯数

※こども宅食の全国普及事業については、フローレンスグループの一般社団法人こども宅食応援団と連携し実施しています。



おやこよりそいチャットなどで
つながった世帯数

約10,500世帯

※専門相談員が家庭にデジタルと対面でのハイブリッドソーシャルワーク（相談支援）を行うサービスへの登録世帯数（2024年3月時点）

支援活動

- 食品のお届け／伴走型支援
- 「こども宅食」全国普及推進活動

みんなで社会変革事業
（寄付・広報）／代表室

寄せられた声

わたしは幼い頃、塾講師に性被害を受けました。親にもなかなか言えず、異常であることから目を逸らし、長く苦しむことになりました。

こどもと関わるすべての大人が大人としての責任を持ち、こどもの健全な育成にあたるべきです。こどもを守るのには、大人しかいません。

（日本版DBS導入を求める声）

「しくみ」「文化」「価値観」を変え
より良い社会を目指す

政策提言で古く不十分なルール・制度を変え、ソーシャルアクションで社会のしくみや人々の価値観をアップデートすることで、新しい文化の創造に挑戦しています。2023年度も多くの提言が骨太の方針に盛り込まれました。

2017年より提言を続けてきたこどもたちを性被害から守るしくみ「日本版DBS」について、対象施設を保育園・学校などに限定する方針との報道を受け、国に対し「こどもと関わる仕事すべて」を制度の対象とすることを求める署名キャンペーンを実施。こども家庭庁の小倉こども政策担当大臣（当時）へ8万筆超の署名を提出しました。2024年6月19日の「日本版DBS」法成立後も真にこどもたちを守る制度になるよう、施行から3年後の法見直しに向けて、対象となる範囲の見直しやハラスメント研修、トラウマケアの必要性などを引き続き提言していきます。

この他にも、提言を行った通園バスへの「置き去り防止装置」設置義務化が23年4月に実現。財政支援が開始し、通園バスに義務付けている「置き去り防止装置（安全装置）」の設置状況は、2024年3月31日時点で100%に達しました。

2023年度のメディア掲載実績

841件（TV52件、新聞191件、雑誌20件、Web526件、ラジオ52件）

主なメディア掲載先

NHK、日本テレビ「news every」、他報道番組、新聞各社（朝日・読売・毎日・日経他）



国に働きかけ
政策として
実現した提言の数

16件

※フローレンス設立当初から2024年4月末時点までで政策を構想し、国に政策提言して実現した件数。この他自治体への政策提言も多数

99

こどもの人権と未来を守りたい

66



みちのくえがお創出事業
（仙台支社）

66

我が子と社会の
つながりを
実感できました

99

利用者の声

保育園に通い始め、息子にも良い変化がありました。例えば人見知りです。今まではどんなところに行っても泣くことはありませんでしたが、今は知らない人や場所をちゃんと認識し、泣くようになりました。親としては、成長を感じてうれしいです。この子が「社会進出」したんだなと思いました。

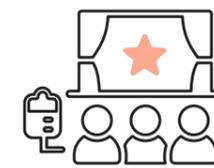
保育園に入れることは、わたしが働きたいからというの大きいですが、こどもにとっても良いことなんじゃないかと思います。何よりも、保育園に入れたことで「社会の中で育っていく」と実感できたことが、かけがえのない経験になりました。（障害のあるお子さんの保護者）



医療的ケア児家庭と社会をつなぐ

医療的ケア児家庭にもっと寄り添った支援を届けるために、「まざらいんキャンペーン」をスタート。SNSを活用したデジタル相談支援「医療ケア児おやこよりそいチャット」や食料品の配達を行う「医療ケア児おやこ給食便」、映画会をはじめとするイベントの開催や情報提供を実施しました。また、「せんだい子ども未来会議」を立ち上げ、障害児支援体制の改善を訴える要望書を仙台市長に提出しました。他にも、企業主導型保育として「仙台市認可で預かりできないお子さん（障害児）」のお預かりを実施。ご家族の職場復帰を支援しました。

今後も取り組みを継続するとともに、『医療ケア児支援ガイドブック』発刊などにも取り組んでいきます。



医療ケア児おやこ映画会
参加者数

約77人



医療ケア児おやこ給食便
訪問ご家庭数

約52件

支援活動

- 小規模認可保育所
- 企業主導型保育園
- 障害児家庭支援

※2023年8月～2024年3月まで

働き方革命事業（総務法務・人事・経理）

誰もが輝けるフローレンスであるために

2023年版「働きがいのある会社ランキング「Great Place to Work」において、スタッフのアンケートを基に一定の水準をクリアした企業にのみ与えられる「働きがい認定企業」に選出されました。また、「Teachme Biz Award 2023」ではダイバーシティ推進賞を受賞。障害者雇用チームへの業務移管により、2,800時間の生産性向上に寄与するとともに障害のあるスタッフの活躍の場を広げることにつながったことが評価されました。この他にも、日本の高齢社会においてフローレンスでも「仕事と介護の両立」に悩みや困難を抱える人が増えることを予想し、管理職向けの研修やスタッフ全員に向けた介護についての情報コンテンツを作成するなど、中長期を見据えた両立のための体制づくりを開始しました。

引き続き働き方や働きがいの視点、領域からも、新しいあたりまえを作っていきます。仕組みやルールを作る課題解決だけでなく、価値観の創造や文化醸成にも取り組んでいきます。



子どもの体験格差解消に向けての取り組み

利用者の声 誕生日にどこへ遊びに行きたいか聞いたところ「公園がいい」と言った息子。「もっと好きなのところに行ってもいいよ」と伝えると「公園だとお金かからないでしょ?」と。我が子に我慢ばかりさせていたんだなと思いました。

今回の体験で、「少し早めのサンタさんがチケットをくれたよ!だから好きなのところに行こう」と伝えると、行きたい場所を3日間も考えていました。当日はとっても楽しそうで、帰ってからも思い出を絵日記に書いていました。そんな息子を見て、わたしもとてもうれしかったです。本当にありがとうございました!

親のわたしにとっても忘れられない思い出です

すべての子どもたちに豊かな体験を

新たな親子の社会課題である「子どもの体験格差」を解消するための取り組みとして、「#夏休み格差をなくそうプロジェクト」を実施。2023年7月～9月の間企業と連携し、約3,000世帯のひとり親家庭等にさまざまな体験を提供するとともに、記者会見など大々的に発信を行い、体験格差という社会課題の周知にもつなげました。

また、渋谷区のふるさと納税型クラウドファンディングにて、「体験格差解消プラットフォーム」立ち上げのための寄付キャンペーンを実施し、ほぼ100%達成。プラットフォームを開発し、夏休みに合わせた2024年8月のサービス開始を目指します。



#夏休み格差をなくそうプロジェクトで体験を届けた家庭

2,885世帯

※2023年度



渋谷区のふるさと納税型クラウドファンディングで集まった寄付額

7,986万円

※2023年度

支援活動 ● ひとり親家庭等への体験提供 ● 体験提供プラットフォームの開発

にんしん相談／赤ちゃん縁組事業

利用者の声 妊娠が分かった時、一人暮らしで働いていましたが、転職したばかりで有休も預貯金もありませんでした。前年度の収入があるため公的支援である「入院助産制度」の対象とならず、誰にも相談できずに困っていました。

フローレンスの「にんしん相談」を知り、LINEでまず相談開始できたのが良かったです。相談員さんは温かく話を聞いてくれ、いろいろな困りごとについて解決のために一緒に考え、支援してくれました。お金もなく、頼る人もいなかったのですが、すごく助かりましたし、妊娠し不安だったので、とても心強かったです。

お母さんと赤ちゃんの「未来」を守る

生まれたばかりの赤ちゃんの遺棄・虐待死が続く状況を改善すべく、にんしん相談（妊娠相談）や赤ちゃん縁組事業（特別養子縁組）、無料産院事業、養親支援に取り組んでいます。

2023年6月に開始した無料産院事業では4つの病院と提携し11組の妊婦とお腹の赤ちゃんをリスクの高い孤立出産から守ることができました。今年度は提携病院を増やし、各地域で相談を受け付けられるよう事業の拡充を目指します。また、13件の特別養子縁組の委託を行い、新しい家族の誕生をサポートしました。2020年4月に開始したLINEを使ったチャットボット「エナガさん相談室」については、AIを活用し、より相談しやすいものへとリニューアルを実施。引き続き精度向上に取り組むとともに、相談支援体制の拡充にも尽力します。



無料産院事業で支援した親子

11件

※無料産院事業を利用して提携病院で出産した件数

支援活動

- 妊娠相談窓口
- 養親サポート
- 特別養子縁組



フローレンス子どもと心クリニック

認定NPO法人フローレンスのグループ法人である医療法人社団マーガレットが運営しています。

利用者の声 いつも初対面の人には一言も話さず、顔も上げず、背を向けてずっと泣きじゃくるだけの娘。しかし、診察の際は泣かず、しどろもどろでも質問に答えていました。先生が娘の気持ちに寄り添い、対処的な診察だけでなく、臨床心理師的な役割を担ってくれたことも、母としてはとてもうれしかったです。

初めての診察の日の夜に、娘が「お医者さんってかっこいいよねえ」と言っていたのが印象的です。先生が自分の気持ちや考えを受け入れてくれていることが本人にも伝わり、安心できたのかなと思います。

子どもたちの「心」と「体」の健康を願って

男女問わずHPVワクチンを接種することの必要性を訴えるため、2022年度末にはクリニックで男性への無料接種アクションを実施。TV・新聞など複数のマスメディアから取材を受け、男性接種の意義を発信しました。また、2023年度には都議会議員対象の勉強会に関連団体と参加し、男性接種の意義を提言。その後、都では本年度から自治体へ費用を補助する事業が始まることと決定し、民間の立場から施策検討を後押ししました。

他にも、2023年11月より、クリニックで女性のための心療内科 / 不登校を選んだ子のための外来を開始。反響を受けて施設を拡張し、より専門的な診療を身近な小児科でできる体制を整えていきます。

女性のための心療内科
受診者数

約192人

※2023年11月～2024年4月

不登校外来受診者数

約150人

※2023年11月～2024年4月

支援活動

- 小児科
- 発達外来
- 不登校を選んだ子のための外来
- 心療内科
- 病児保育室



あ寄り娘にありがとう

フローレンスに託してくれた 寄付者さんの声

木を育てる大地の水のように、
活動を支え、力を与えてくださる
皆さんの“想い”をお届けします。



小倉 昌弘さん
(遺贈寄付者)

遺贈先の選定や遺言作成について具体的に検討
する中で、フローレンスが子育てを社会全体で支え
る活動に奔走されていることを知り、最後に残った遺産
はこの団体に任せたい!と強く思いました。遺贈先が決
まった今は胸のつかえが取れ、とてもスッキリした気
持ちです。自分が残した資産が日本の将来を担うこ
どもたちのために活かされる。こんな喜びは
ありません。自分が生きた証にもな
るでしょう。

遺贈寄付とは
遺言等によりご自身の遺
産から、または相続された財
産などからのご寄付のことで
故人の生きた証や想いを、日本
の子どもたちの明るい未来の
実現につなげることが
できます。



素晴らしい環境の中で温かな 眼差しを受けて成長してほしい

Thierry Neuville (ティエリー・ヌービル) さん

ラリージャパン 2023 でフローレンスをサポートできて、本
当にうれしく思っています。子どもたちが愛情をもって育てら
れることはとても大切ですが、ひとり親家庭では、子育てのスト
レスが多くなってしまったり、難しい状況に陥ってしまうこ
とがあると、十分に理解しています。子どもたちは素晴らし
い環境の中で、温かな眼差しを向けられながら成長すべ
きであり、これこそがフローレンスの素晴らしい
活動の目指すところだと思っ
ています。



子どもたちの命と権利を 守り、幸せな未来を創造する 株式会社 adapt retailing

これからの未来を背負っていく子どもが幸せでなけれ
ば意味がないのではないかと、弊社はその思いから子ども
への寄付活動や衣料支援活動に取り組んでいます。現
在、虐待や貧困に苦しんでいる子どもがたくさんいま
す。子どもの命と権利が守られる、本当に幸せな
未来の創造を目指し、これからもサポート
していきたく思います。

夢をあきらめずに 挑戦できる社会を 日本オラクル株式会社

オラクルでは、未来を創造するためには、多様な背景、
視点、能力を持つ人が必要であると考えており、すべて
の人がその人らしく生きていける社会、夢をあきらめず
に挑戦できる社会を業界やセクターを超えて、一緒に
作っていきたく願っています。フローレンスさんの
ビジョンに共感し、ともに社会を変革する仲間
として、一緒に進んでいけることをと
ても誇らしく思います。

遠藤 幸子さん

フローレンスの障害児訪問保育アニーで
大変お世話になった経緯もあり、寄付という形で活
動に賛同させていただきました。子どもたちにとって
希望に満ち溢れた社会にすることは、大人の役割の一
つだと考えています。無邪気で純真無垢な子どもたち、
大きな可能性を持った子どもたちにとって安心安全
な社会をフローレンスさんとつくることで、こ
どもたちが希望に満ち溢れた心を持って成長
していくことを祈っております。

一人でも多くの 子どもたちの笑顔願って 明治ホールディングス株式会社

弊社は2021年より、社内募金制度「ハビネス基
金」を活用し、全国の子どもたちに食品やお菓子の
寄贈を行っております。これからも、「人を育む」「社
会を支える」「地球を未来につなぐ」という明治グ
ループ社会貢献活動ポリシーのもと、一人
でも多くの子どもたちが笑顔になれるよ
う、取り組んでまいります。



法人・団体の皆さんへ
寄付の相談・
お申し込みはこちら

フローレンスを支えてくださった

企業・団体（一部紹介） ※五十音順・敬称略

COCA

株式会社 adapt retailing

amazon

アマゾンジャパン合同会社



株式会社 invox



Water Dragon Foundation



MFS インベストメント・マネジメント株式会社

COSTCO WHOLESALE

コストコホールセールジャパン株式会社



SAC'S BAR HOLDINGS

株式会社 サックスバーホールディングス

Sumitomo Pharma

住友ファーマ株式会社



株式会社セールスフォース・ジャパン



株式会社セブン&アイ・ホールディングス

DAIKO

大興電子通信株式会社

T.RowePrice

ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社

DECKERS BRANDS

デッカーズジャパン合同会社

ORACLE

日本オラクル株式会社



一般財団法人日本民間公益活動連携機構

ハタチ基金

公益社団法人ハタチ基金

Brillar Moissanite Fine Jewelry

株式会社 Brillar



みてね基金

健康にアイデアを meiji

明治ホールディングス株式会社

一般社団法人 足の8020 | 安藤バラケミー株式会社 | Western Digital | AC ワークス株式会社 | FJ ホールディングス株式会社 | 株式会社 AURUM | システムメトリックス株式会社 | 株式会社摂津金属工業所 | 大和ハウス工業株式会社 (大和ハウスグループ エンドレス募金) | チューリッヒ保険会社 | 株式会社ビー・エス・デー インフォメーションテクノロジー | 株式会社ファイントウデイ | 株式会社 PETTERS | 株式会社ベル・ジュバンスエージェンシー | 株式会社ポスパム |

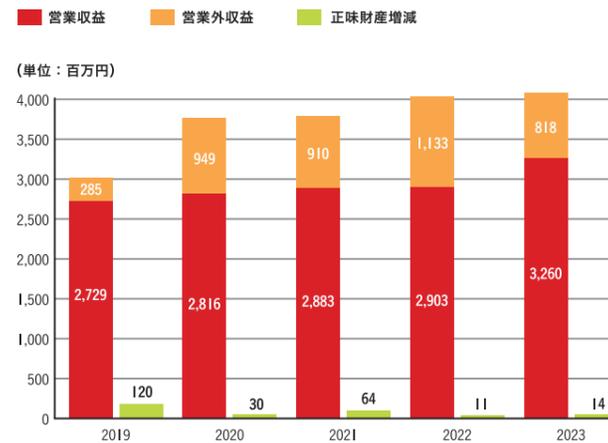
技術提供他、さまざまな形で支えてくださった企業・団体の皆さん

京浜スチール工業株式会社 | 株式会社講談社 | コンフォートフォーム株式会社 | サイバーソリューションズ株式会社 | サノフィ株式会社 | 株式会社 C-links | 株式会社トーコネ | トライアロー株式会社 | 株式会社 日本ギャップ解決研究所 | 日本生命保険相互会社 | HAVI サプライチェーン・ソリューションズ・ジャパン合同会社 | 細木数子事務所 | 三井住友カード株式会社 | 横浜ゴム株式会社・YOKOHAMA まごころ基金 | ライオン株式会社 | 株式会社リコー | 株式会社林間

ウイングアーク1st株式会社 | ソフトバンク株式会社 | 公益財団法人パブリックリソース財団 | LINE ヤフー株式会社 | Yahoo! ネット募金

2023年度 財務報告

収益・正味財産増減額



収益増減額サマリー

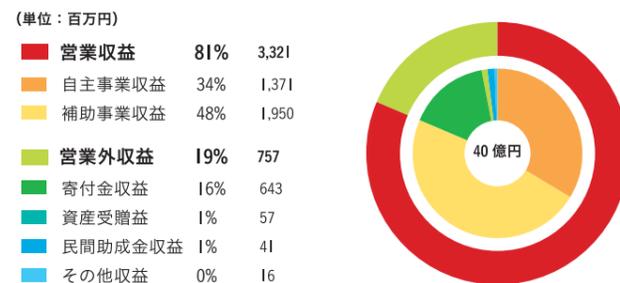
フローレンスの2023年度の総収益は40億7千8百万円となり、前年より+4千2百万円増収（前年比101%）しました。今年度は、食支援活動事業への補助金収入（2億3千万円）を受領し、全国の「保育園子ども食堂」に対して支援を行っております。

正味財産増減額サマリー

総費用は、41億6千6百万円となり、22年度以前にいただいた寄付金（営業外収益）による積立金から1億2百万円を取り崩し、正味財産（純利益）は昨年度より+2百万円増加（前年比124%）して1千3百70万円です。

※ 総収益および総費用には指定正味財産からの振替および積立金からの振替を含みません。

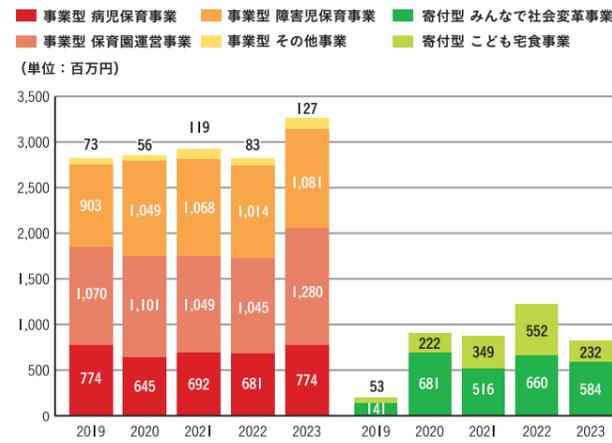
収益の内訳



収益内訳サマリー

2023年度40億7千8百万円のうち、地方自治体からの保育園運営および福祉事業の運営補助金が19億4千9百万円（48%）、寄付収益は6億4千3百万円（16%）でした。皆さんよりご支援いただいた寄付金は、新たな福祉サービスの開発や事業投資、政策提言活動などに使用し、社会課題解決に向けた推進の力としております。

事業モデル別収益



事業モデル別の収益推移サマリー

フローレンスの事業は、サービス提供による事業収益を主な原資とするモデル（事業型モデル）と、寄付収入を主な原資とするモデル（寄付型モデル）の2つの事業モデルがあります。

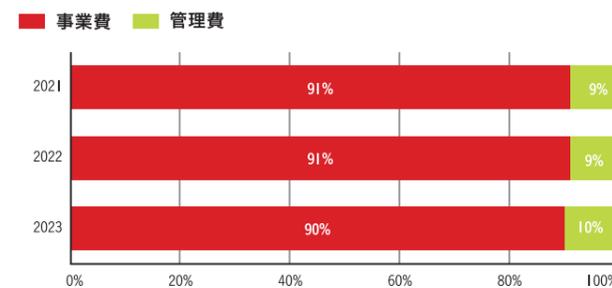
事業型モデル

- 病児保育事業：例年を超える感染症の流行のため、保育料収入により9千3百万円の増収となりました。今後も予想される需要増に備え、安定的な事業運営のため、人員の増強を行っています。
- 保育園運営事業：「保育園子ども食堂」による食支援活動事業への補助金収入（2億3千万円）を受領しました。

寄付型モデル

- みんなで社会変革事業：渋谷区の「ふるさと納税を活用した認定NPO法人支援事業」では、たくさんのご寄付をいただきました。体験格差解消のためのプラットフォーム事業に活用していきます。

事業費比率



事業費率サマリー

経常費用のうち、法人運営のための管理費を除いて社会問題解決のための事業に使用された費用の割合を示す事業費比率は、2023年度は90%でした。フローレンスでは事業費比率90%前後を目安として事業運営しております。

2023年度 貸借対照表

科目	金額（単位：千円）
I 資産の部	
1 流動資産	2,029,911
2 固定資産	312,529
資産合計	2,342,441
II 負債の部	
1 流動負債	529,993
2 固定負債	743,531
負債合計	1,273,524
III 正味財産の部	
正味財産合計	1,068,917
負債及び正味財産合計	2,342,441

2023年度 活動計算書

科目	金額（単位：千円）
I 経常収益	
1. 受取寄付金	643,392
2. 受取助成金等	1,990,664
3. 事業収益	1,371,409
4. その他収益	72,969
資産受贈益	57,282
その他	15,688
経常収益計	4,078,435
II 経常費用	
1. 事業費	3,735,886
2. 管理費	430,169
経常費用計	4,166,055
当期経常増減額	▲87,620
III 経常外収入	
経常外収入計	110,265
IV 経常外費用	
経常外費用計	8,288
法人税、住民税及び事業税	592
当期正味財産増加額	13,766

開示情報の前提

NPOはあくまでも「社会課題の解決」を存在意義とし、利益は継続的な活動をしていくための手段です。とはいえ責任を持って持続可能な運営を行うためには、企業と同様に財務健全性を度外視することはできません。フローレンスはそうした財務健全性を保つため、本ページにおいて財務情報の開示を行い、経営の透明性を高めてまいります。なお、会計処理および開示方法については、NPO会計基準に従っております。

MESSAGE

託された想いを形に

財務の視点から2023年度の活動報告

いつもご支援いただきありがとうございます。

財務の視点で特に大きく動きがあった活動を報告いたします。

わたしたちの事業には、主にサービス収益で運営される病児保育事業や補助金で運営される保育園事業等の「事業型モデル」と、主に寄付で運営される子ども宅食事業等の「寄付型モデル」があります。収益のうち48%を占める補助金は、主に認可保育園や障害児保育の運営に給付された補助金です。

「事業型モデル」では、地域の親子を対象に、保育園で子ども食堂とパントリーを実施する『保育園子ども食堂』に取り組みました。直接運営する園に加え、中間支援団体として全国の99事業者に対し、国から交付された補助金を原資に資金助成と運営サポートを行いました。全国の仲間と共に保育園が地域で多様な役割を担う活動を広げました。

2022年度と2023年度に実施した渋谷区の「ふるさと納税を活用した認定NPO法人支援事業」では、たくさんのご寄付をいただきました。2022年度のご寄付8千3百万円を原資に、2023年度はひとり親家庭への病児保育の提供、特別養子縁組事業、要支援家庭をサポートするソーシャルワーク活動など、子どもへの虐待防止に向けた活動に取り組みました。2023年度のご寄付は、子どもの体験格差をなくすことを目指し、企業からいただく体験提供とおやこをつなぐプラットフォーム事業『子ども冒険バンク[※]』の立ち上げと運営に活用させていただきます。

また、「寄付型モデル」では、経済的理由や社会的な孤立が理由で病院を受診できずに出産を迎えてしまう妊婦のために、地域の医療機関と提携して支援する『無料産院』プロジェクトを推進しました。皆さんからのご支援や応援により、今年度もこれらの新しい社会課題解決に取り組むことができました。あらためてお礼を申し上げます。

※ 2024年8月提供開始予定

財務担当ディレクター

杉山 富美子



VISION

今を生きるわたしたちと
まだ見ぬ子どもたちが
希望と手をつないで歩める社会。
さあ、心躍る未来へ。

MISSION

事業をつくり、しくみを変え、文化を生み出し、
ともに「新しいあたりまえ」を未来に手渡そう。

子どもたちのために、日本を変える

Florence

認定 NPO 法人フローレンス

会長 駒崎 弘樹 代表理事 赤坂 緑

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1丁目14-1 KDX 神保町ビル 3F
TEL 03-6811-0903 FAX 03-6811-0902 <https://florence.or.jp/>

2004年 特定非営利活動法人内閣府認証取得

2012年 東京都より認定非営利活動法人（認定 NPO 法人）取得

2024年 スタッフ（事務局・支援スタッフ他）合計 794 名（4月現在）

フローレンスグループ

- 一般社団法人
子ども宅食応援団
- 医療法人社団マーガレット
（「フローレンス子どもと心クリ
ニック」を運営する法人）

関連団体

- 特定非営利活動法人
全国小規模保育協議会
- 全国医療的ケア児者支援協議会
- 新公益連盟

新しいあたりまえをすべての親子に届ける活動に、参加しませんか？

フローレンス 寄付

検索

毎月の寄付で支える

1,500円からの継続的なご寄付。フローレンス全体の活動を支え、政策提言や緊急支援を実現する力になります。



今すぐ支援をする

100円から、好きな金額と方法で。その一歩が、社会を変える大きな力になります。



寄付額最大約5割が戻ってきます

フローレンスは東京都の認定を受けた、認定 NPO 法人です。ご支援くださる皆さんは、所得税、法人税、相続税などの税制上の優遇措置を受けることができます。

